

令和8年度 第1回買物公園エリアプラットフォーム会議 会議要旨

【開催日時】

令和8年6月11日（木） 18:30～20:30

【開催場所】

旭川市庁舎1階レストラン

【会員参加者（敬称略）】

荒木 孝文、有馬 準、植木 大輔、草野 常幸、久保 竜弥、佐藤 祐哉、四戸 秀和、鈴木 伸治、近澤 尚明、知本 有里、長尾 英次、中田 崇太、蜂須賀 咲来（Web）、三浦 詩乃（Web）、目黒 有季哉、柳 絵里、山田 直人、横井 昂也、旭川市

【会議資料】

第1回 エリアプラットフォーム会議

【会議内容】

- 1 開会
- 2 議事

① 組織体制（規約改定・役員選出）について

- 旭川市より、規約改定の内容について報告した。
- 規約改定に伴い、新たに幹事及び監事の選出を行った。幹事については、代表幹事の長尾氏から、四戸氏と知本氏が継続し、荒木氏と横井氏が新たに就任する案が示され、監事については、旭川市から佐藤氏の就任を提案し、いずれも会員から意見等はなく、提案どおり決定した。

② 今年度の取組について

- 買物公園広場化等実装業務の受託者である株式会社オリエンタルコンサルタンツ（以下「オリコン」という。）より、昨年度の買物公園エリアプラットフォーム（以下「エリプラ」という。）の取組内容と、今年度以降の取組課題について説明した。
- 幹事の横井氏より、今年度のエリプラの事業計画案及び予算案についての説明があり、会員から意見等はなく、提案どおり決定した。
- オリコンより、エリプラにおけるエリアマネジメント組織の必要性及び組織設立から実働までのスケジュールについて説明した。
- 幹事の四戸氏より、今年度のエリプラ会議及び勉強会の開催スケジュールについて説明した。

③ 今年度のまちにち計画について

- 幹事の知本氏より、今年度のまちにち計画の実施概要及び滞在空間の設置方針について説明した。続いて、オリコンより、まちにち計画の広報及び買物公園エリアロードマップ案の意見聴取の実施について説明した。

④ グループワーク：エリプラが果たす役割と自身・団体との関わり

- 幹事の荒木氏及び四戸氏がファシリテーターとなり、「エリプラが果たすべき役割・取り組むべきこと」及び「自身のエリプラとの関わり方」の2つのテーマについて、4つの班に分かれてグループワークを実施した。
- 「エリプラが果たすべき役割・取り組むべきこと」について、各グループから以下のような意見があった。（※以下は発表された意見であり、この他にも様々な意見等が出された）

(a) まちの見た目や、過ごす場所について

- ・ 最近の猛暑を踏まえ、水飲み場があったほうがよい
- ・ まちにち計画で設置したタープのような、日陰を生み出す仕組みがあるとよい
- ・ スケートボードパークのような施設があれば、若い人たちが集まるのではないか

(b) まちでの過ごし方、経済・文化活動を活性化するイベントについて

- ・ スポーツイベントのようなものがあたらよい
- ・ ストリートパフォーマンスがいつでも出展できるようになるとよい
- ・ 野外ライブができるような環境があるとよい
- ・ 倉吉市で行われているような「クエストマップ」を作り、まちなかを冒険する感覚でまち歩きを促す仕組みを作ってはどうか

(c) みんなが集まる場所や、情報発信について

- ・ 旭川から出ていった人たちのほうが故郷について考える機会が多いので、そうした人たちが戻ってきたときに情報発信できる仕組みや、オンラインで情報共有できる場があるとよい
- ・ 8条の噴水をより多くの人が集まるシンボリックなものにできたらよい
- ・ フードテラスは土日でも利用できるようになるとよい
- ・ 掲示板や交流・歓談ができる空間が整備されると、高校生や大学生などの若い人たちが集まるのではないかと

(d) まちを動かすチームの仕組みについて

- ・ まちなかボランティアを育成してはどうか

⑤ 専門家からのアドバイス

- アドバイザーの鈴木氏、三浦氏から、次のような意見があった。
 - ・ 買物公園の居心地を良くするためにできることはまだある。例えば、ベンチをより座りやすくするためのアイデアを出し合い、実際の製作までを一連のイベントとして実施できるのではないかと。こうした取組は情報発信にもなり、新しい人とのつながりを作ることに繋がる。
 - ・ 買物公園に詳しい方が、買物公園を紹介するツアーを実施すると、単にパンフレットを見るよりも面白い内容になるのではないかと。その様子を参加者がSNSで発信すれば、それ自体が買物公園の広報にもなる。
 - ・ 社会実験期間だけでなく、年間を通じてイベントや活動ができるとよいのではないかと。例えば、冬場にもエリプラメンバーでイベント等を実施し、その場で意見交換できる機会があるとよいと思う。
 - ・ 買物公園は商店街であるが、なぜそこにエリプラがあるのかを考える必要がある。商店街にとって利益となることであれば動きやすいが、緑の管理など、商店街として動きにくいこともあるので、エリプラが存在することで包括的に動けるようになる。
 - ・ まちで活躍する人のポートレートなど、担い手が前面に出てくるようなアートがあるとよいのではないかと。
 - ・ 情報発信については、過去に買物公園で発信してきた人たちとの連携や、メディアなどにつなげていくことを考える必要がある。
 - ・ 広場条例の素案については実証実験を通じて運用し、その結果を踏まえて改善していくことが必要である。また、公開空地の活用を含めた検討を進める必要があり、協定についても議論の対象とすべきではないかと。

⑥ 案内

- まちなかキャンパス2026へのエリプラの出展、次回勉強会及びエリプラ会議の案内を行った。

3 閉会

以上